

MASTER VIEW MAX SLIDEAWAY™ LCD KVM SWITCH

masterview™ MAX

slideaway™ LCD 一体型 KVM ドロワー

CL-1208/CL-1216 ユーザーマニュアル



注意

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。



同梱品

基本パッケージ

以下のものが同梱されているか、ご確認ください。

- ◆ CL-1208 または CL-1216 LCD 一体型 KVM ドロワー × 1
- ◆ カスタム KVM ケーブル (2L-5202P) × 2
- ◆ 電源ケーブル × 1
- ◆ ファームウェアアップグレードケーブル × 1
- ◆ ユーザーマニュアル (本書) × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1
- ◆ イージーセットアップ ラックマウントキット (ユーザー選択、ショート or ロング) × 1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本装置と接続されたデバイスの破損を防ぐために、本ユーザーマニュアルをご使用前によくお読みになり、正しい手順に従って設置し、ご使用ください。

© Copyright 2005 ATEN® International Co., Ltd.

Manual Part No.PAPE-0246-101G

Printed in Taiwan 11/2005

製品名等は、各社の商標または登録商標です。

目次

本マニュアルについて	6
マニュアル表記について	7
第 1 章 はじめに	8
製品概要	8
製品特長	10
必要ハードウェア環境	11
製品各部説明	12
CL-1208 / CL-1216 フロントビュー	12
CL-1208 / CL-1216 リアビュー	14
第 2 章 ハードウェアセットアップ	16
1 台でのセットアップ	16
デイジーチェーン接続によるセットアップ	18
第 3 章 基本操作	20
コンソールの引き出し	20
コンソールの収納	21
LCD OSD 設定	22
LCD ボタン	22
LCD 調整	23
ポート選択	24
ホットプラグ	25
電源オフ、再起動	26
ポート ID 番号付け	27
第 4 章 OSD 操作	28
OSD 概要	28
OSD ナビゲーション	30
OSD メイン画面説明	30
OSD ファンクション	31
◆ F1 GOTO	31
◆ F2 LIST	32
◆ F3 SET	33
◆ F4 ADM	35
◆ F5 SKP	39
◆ F6 BRC	40
◆ F7 SCAN	41
◆ F8 LOUT	42
第 5 章 ホットキー操作	43
ホットキーによるポートアクセス	43

ホットキーモードの呼び出し	43
アクティブなポートの選択	44
オートスキャン	45
スキャン間隔の設定	45
オートスキャン呼び出し	46
スキップモード	47
ホットキービーブ音コントロール	48
ホットキー 一覧表	49
第 6 章 ファームウェアアップグレード ユーティリティ	50
アップグレードの前に	51
アップグレード開始	52
アップグレード成功	55
アップグレード失敗	55
ファームウェアアップグレードリカバリー	56
付録	57
コンピュータ接続表	57
OSD デフォルト設定一覧	58
ログイン情報の消去	59
ラックマウント	60
仕様	63
トラブルシューティング	63
製品保証規定	64

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは CL-1208/CL-1216 に関する情報や使用法について説明しており、取付け配置方法、および操作方法の全てを提供しています。マニュアルの構成については下記をご参照ください。

- 第1章 はじめに: CL-1208/CL-1216 導入の目的・機能や、フロント・リアパネルについて紹介します。
- 第2章 ハードウェア セットアップ: CL-1208/CL-1216 のセットアップ方法について説明します。単純な 1 段階接続からデイジーチェーンによる 32 台の接続まで説明します。
- 第3章 基本操作: CL-1208/CL-1216 の基本的な操作について説明します。
- 第4章 OSD 操作: CL-1208/CL-1216 の OSD (オンスクリーンディスプレイ) 詳細および操作方法について説明します。
- 第5章 ホットキー操作: CL-1208/CL-1216 のホットキー操作について説明します。
- 第6章 ファームウェアアップグレードユーティリティ: CL-1208/CL-1216 用ファームウェア最新版が公開されたときのアップグレード方法について説明します。
- 付録 マニュアル末尾には CL-1208/CL-1216 についての技術情報およびその他の重要事項についてまとめてあります。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl],[Alt],[Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。



◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。



矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

第 1 章 はじめに

製品概要

master view™ CL-1208/CL-1216 LCD 一体型 KVM ドロワーは 1 組のコンソール(キーボード、モニター、マウス)で複数のコンピュータへのアクセスを可能にするコントロールユニットです。master view™が開発される以前、複数台のコンピュータを 1 組のコンソールでコントロールするには、複雑でコストがかかるネットワークシステムを導入する方法しかありませんでした。master view™CL-1208 および CL-1216 を導入すれば、低コストで、とても簡単に複数のコンピュータにアクセスし、操作できるようになります。

1 台の master view™CL-1208 で 8 台まで、CL-1216 は 16 台までのコンピュータをコントロールすることが可能です。31 台の master view™CL-1216 をデ이지チェーン接続することで、最大 512 台のコンピュータを 1 組のコンソールで操作できます。

master view™CL-1208/CL-1216 は、キーボード、LCD モニタおよびタッチパッドをラックマウントに収納できる便利な 1U サイズのドロワー型として設計し、スペースの有効活用および合理化を実現しました。KVM モジュール部分をスライドさせて引き出し、カバーを開けるだけですぐ作業ができる状態になります。LCD モニタはカバー面に、キーボードとタッチパッドは本体面に取り付けてあります。作業終了時には、カバーを閉じ本体をスライドさせてラック内に収納するだけです。

さらに便利な点は、CL-1208/CL-1216 は通常の 25 ピンコネクタの代わりに、高密度の 15 ピンを使用していることです。この新しいコネクタの発明によって、16 ポートの KVM スイッチを 1U システムラックに完全に収納することができ、省スペースを実現しました。

ユーザーの CL-1208/CL-1216 への設備投資は、製品を常に最新の状態に保つファームウェアアップグレードユーティリティによっても保証されます。弊社 web サイトで公開される最新のファームウェアパッケージをダウンロードしていただき、付属する便利で簡単なユーティリティを使用してアップグレードを行えば、最新の性能を手に入れることができます。

セットアップも手早く簡単にできます。必要な作業はケーブルを該当ポートに差し込むだけです。CL-1208/CL-1216 は直接キーボード入力ができるので、特別なソフトウェアや設定作業を必要とせず、複雑なインストール手順や互換性の問題に悩まされることもありません。接続されたどのコンピュータへも、キーボードのホットキー入力、または OSD(オンスクリーンディスプレイ)システムを使用して、簡単にアクセスすることができます。便利なオートスキャンシステムで、接続されている動作中のコンピュータの状態を一台ずつ監視、かつ自動的にスキャンすることができます。

master view™CL-1208/CL-1216 を導入するより、時間とコストを節約する方法は他にありません。
CL-1208/CL-1216 を使用することにより、以下のことが可能になります。

- (1) 各コンピュータにそれぞれキーボード、マウス、モニタを購入する必要がなくなります。
- (2) それらの場所をとる余計な機器を設置するスペースが節約できます。
- (3) 標準的な KVM スイッチとキーボード、モニタ、マウスを設置するスペースを節約できます。
- (4) 電気代を節約できます。
- (5) コンピュータからコンピュータへと度々移動する手間が省けます。

製品特長

- ◆ コンパクトにまとめられた 15 インチ/17 インチ slideaway™ LCD 一体型 KVM ドロワー
- ◆ 高さ 1U サイズ以下の slideaway™ 設計ラック内部でのスムーズな取り扱いを生む上下の空間
- ◆ 省スペース技術－1 台の CL-1208 で 8 台まで、CL-1216 は 16 台までのコンピュータをコントロール可能
- ◆ 外部コンソール(PS/2 接続のキーボード・マウスおよび HDB-15 接続のモニタ)が接続可能
- ◆ デイジーチェーン接続可能－31 台のユニットをデイジーチェーンケーブルで接続して最大 512 台のコンピュータがコントロール可能 (CL-1216)
- ◆ ソフトウェア不要－ホットキーまたは OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューを使用して、簡単にコンピュータの切替えが可能
- ◆ 選択したコンピュータを、オートスキャン機能により監視
- ◆ ブロードキャストモード－接続された複数のコンピュータに同じコマンドを同時実行可能
- ◆ ホットプラグ対応－電源を入れたままで、コンピュータの取り付け、取り外しが可能
- ◆ 2 レベルパスワードによるセキュリティ機能－権限を与えられたユーザーのみがコンピュータを閲覧・管理することができ、最大 4 人までのユーザーおよび 1 人のアドミニストレーターを登録可能
- ◆ LCD モニタは DDC エミュレーション対応－接続された各コンピュータの VGA 設定を自動検出し、LCD モニタに最適化して表示
- ◆ ファームウェアアップグレード可能

必要ハードウェア環境

コンピュータ

以下の装置が各コンピュータにインストールされている必要があります。

- ◆ VGA、SVGA またはマルチシンクカード X1

注意: 搭載されている LCD モニタの最大解像度が 1,024 × 768 (15 インチ) / 1,280 × 1,024 (17 インチ) なので、コンピュータの解像度はそれぞれの最大解像度を越えないように設定してください。

- ◆ ミニ DIN 6 ピン の PS/2 マウスポート

- ◆ ミニ DIN 6 ピン (4 番ピンが DC 5V、3 番ピンがアース) の PS/2 キーボードポート

注意: キーボードポートは DIN 5 ピン (5 番ピンが DC 5V、4 番ピンがアース) の AT タイプ キーボードポートについても対応しています (ミニ DIN6 - DIN5 変換アダプタが必要) が、マウスポートはシリアルマウスに対応していません。PS/2 - シリアル変換アダプタを使用しても正しく動作しません。

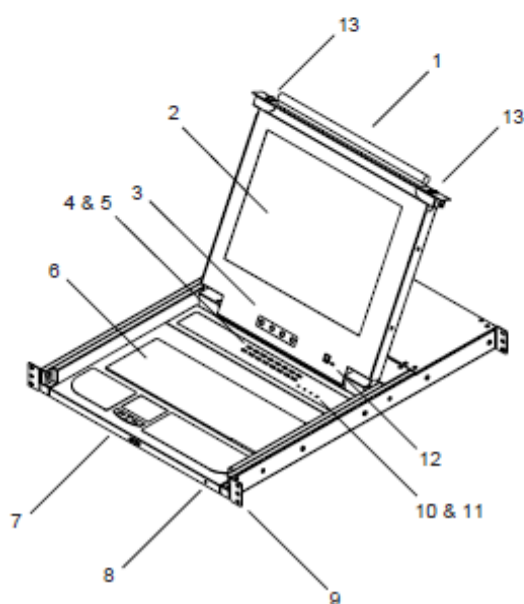
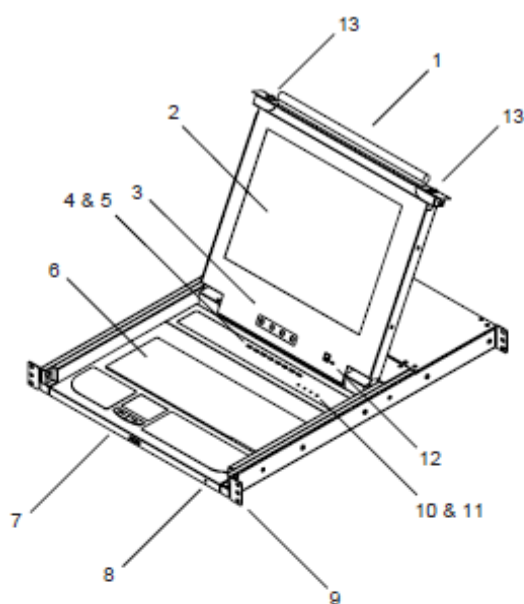
ケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。データを最適な環境で破損することなく送信するためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、以下の表にまとめた高品質の CS カスタムケーブルセットをご使用になることを推奨いたします。

機 能	型番と長さ
デジチェーン用	2L-1700 (0.6m)
	2L-1701 (1.8m)
KVM スイッチ - コンピュータ (PS/2 接続)	2L-5201P (1.2m)
	2L-5202P (1.8m)
	2L-5203P (3.0m)
	2L-5206P (6.0m)

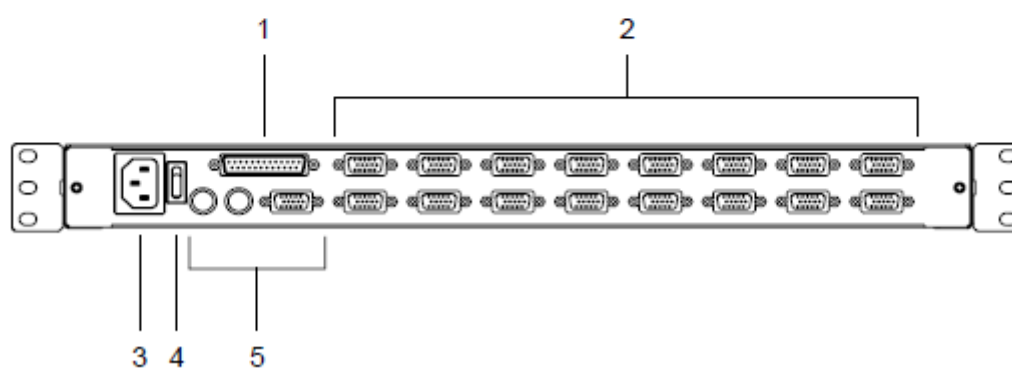
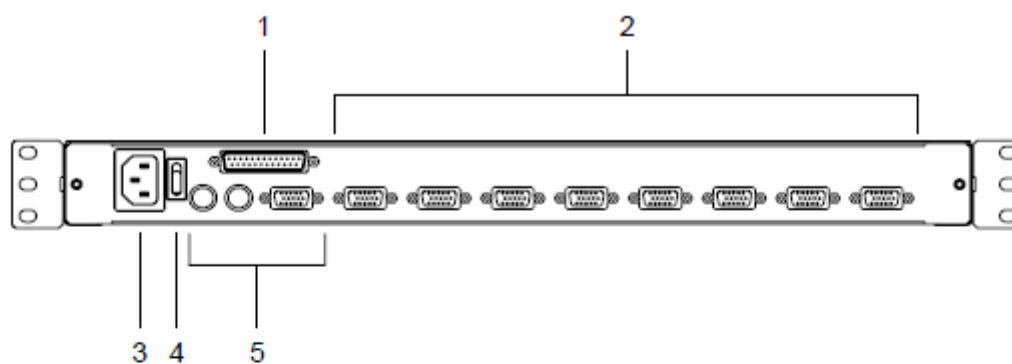
製品各部説明

CL-1208 / CL-1216 フロントビュー



1. ハンドル	使用時は本体をスライドさせて引き出し、終了時はスライドさせて収納してください。この表の 13 番の項目もご覧ください。
2. LCD ディスプレイ	本体をスライドさせて引き出した後、LCD モニタ、キーボードおよびマウスパッドが使用できるよう、カバーを開けてください。
3. LCD コントロール	LCD のオン/オフスイッチは、LCD の画面位置および画質設定のボタンに並んでこの位置に設置されています。
4. ポート選択スイッチ	このスイッチを押すと対応するポートに接続されたコンピュータに切替ります。詳細は P.23 をご参照ください。
5. ポート LED	ポート LED はポート選択スイッチ内部に組み込まれています。左側の LED はオンライン LED、右側は選択ポート LED です。 ◆ オンライン LED : オレンジ色の LED が点灯しているときは、接続されているパソコンの電源がオンであることを示します。 ◆ 選択ポート LED : 緑色の LED が点灯しているときは、対応するポートに接続されたコンピュータが KVM によって選択されていることを示します。通常の場合で使用されている場合で、LED ランプが点滅しているときはアクセスしているポートが現在、オートスキャンモード(P.41 の F7 スキャンをご参照ください)になっていることを示します。
6. キーボード	
7. タッチパッド	
8. 電源 LED	この LED がブルーに光っているときはユニットが電源供給を受けていることを示しています。
9. ラックマウントタブ	ラックマウントタブはユニットの四隅に設けられていて、システムラックへしっかりと固定できるようになっています。マウント作業の詳細については P.60 をご参照ください。
10. ロック LED	Num Lock、Caps Lock、Scroll Lock のステータスを表示します。
11. リセットスイッチ	ロック LED の右側にあります。ピンホール型のスイッチで、システムリセットに使用します。
12. ファームウェアアップグレードセクション	◆ ファームウェアアップグレードポート: 管理者のコンピュータに保存した新しいファームウェアパッケージのファイルを転送するファームウェアアップグレードケーブルは、RJ-11 コネクタを使用してここに接続します。 ◆ ファームウェアアップグレードスイッチ: 通常使用の際はこのスイッチを NORMAL 位置にしておいてください。 ファームウェアアップグレードの詳細については P.50 をご参照ください。
13. スライド固定スイッチ	ユニットをラックから引き出す場合、最初にこのスイッチを内側にずらしてください。ラックからの引き出し・収納については P.20 をご参照ください。

CL-1208 / CL-1216 リアビュー

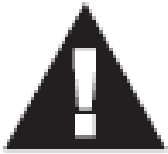


1. デイジーチェーンポート	デイジーチェーン接続するときは、専用ケーブルをここに接続してください。
2. CPU ポートセクション	コンピュータに接続するケーブルはここに接続してください。 注意: この 15 ピンコネクタは、このスイッチに対応するために設計された延長ケーブルが接続できるように特別にデザインされたものです (詳しくは、P.11 のケーブルをご覧ください)。 このポートをコンピュータに接続するのに、通常の HDB-15 VGA 接続ケーブルをご使用にならないでください。
3. 電源ソケット	3 極 AC 電源ソケットです。
4. 電源スイッチ	ロッカースイッチでユニットの電源オン/オフを行います。
5. 外部コンソールセクション	システムの柔軟性と利便性向上のため、CL-1208/CL-1216 は独立した外部 KVM コンソールを接続可能です。外部コンソールを使用する際はそれぞれのケーブルをここに接続してください。

第2章

ハードウェア セットアップ

セットアップの前に



1. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。
2. コンピュータやデバイスへのダメージを避けるために、接続されているすべてのデバイスが正しくアースされていることを確認してください。

1 台でのセットアップ

1 台のみのセットアップでは、他の KVM スイッチを使用することはありません。次ページの図を参照しながら下記の手順に従ってセットアップ作業を進めてください。

1. 外部コンソールの KVM (キーボード、モニタ、マウス) ケーブルをリアパネルの外部コンソールポートに接続してください。ポートは PC99 準拠のカラーリングが施されています。

注意:

このステップは外部コンソールを使用する場合にのみ必要です。

2. 設置するコンピュータを、KVM ケーブル (P.11 参照) を使用して、任意の CPU ポートに接続してください。

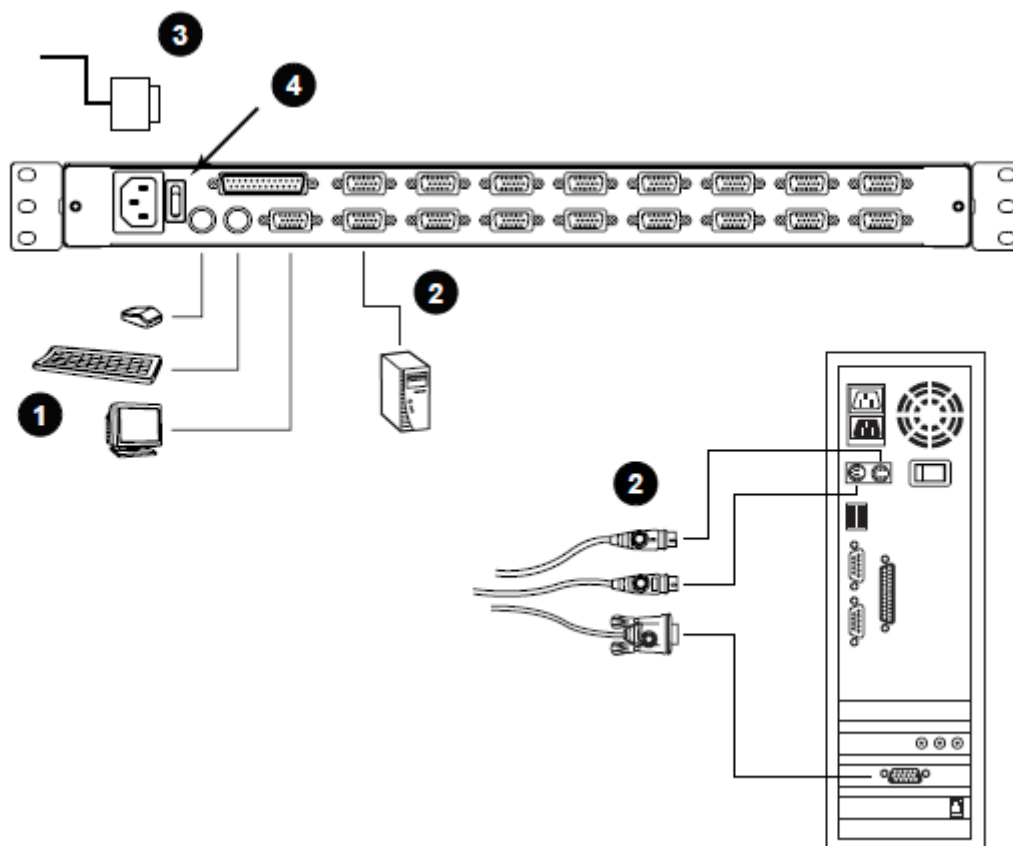
注意:

1 台でのセットアップではデイジーチェーンポートは使用しません。デイジーチェーンポートは他の KVM ユニットを追加するときのみ使用します。デイジーチェーン接続については次章で説明しています。

3. 同梱の電源ケーブルをスイッチの電源ソケットに接続してから、AC 電源コンセントに接続してください。

4. KVM スwitchの電源をオンにしてください。

5. KVM スwitchの電源がオンになった後、コンピュータの電源をオンにしてください。



デジチェーン接続によるセットアップ

より多くのコンピュータをコントロールするために、最大 31 台までの master view™ ACS-1208A または ACS-1216A を CL-1208/CL-1216 にデジチェーン接続することができます。

注意: デジチェーン接続の際、CL-1208/CL-1216 を追加するという浪費をする必要はありません。なぜならデジチェーン構成の中に余計なコンソールを増やしても無駄になるからです。

ACS-1208A および ACS-1216A は、slideaway™ コンソールの形状でないこと以外、KVM スイッチとしての性能は CL-1208/CL-1216 と全く同じです。

CL-1208 は最大 504 台、CL-1216 は最大 512 台のコンピュータが以下の設置方法で、コンパクトにまとめられた slideaway™ コンソールからコントロールできます。P.57 に master view™ と接続できるコンピュータの数を記載しています。

デジチェーン接続のセットアップ方法は以下の通りです。次ページの接続図を参考にしながらセットアップ作業を進めてください。

1. 今から接続する全ての装置の電源が切れていることをお確かめください。
2. デジチェーンケーブル (P.11 ケーブル参照) を使用して、親機のチェーンアウトポートと 1 台目の子機チェーンインポートを接続してください。
3. KVM ケーブル (詳細は ACS-1208A/ACS-1216A 付属のユーザーマニュアルをご参照ください) を使用して、設置するコンピュータのキーボード、モニタ、マウスの各ポートと master view™ の CPU ポートを接続してください。
4. さらに多くの KVM スイッチを接続する場合は、上記の手順を繰り返してください。
5. 以下の手順に従って、取り付けられた装置に電源を入れてください。

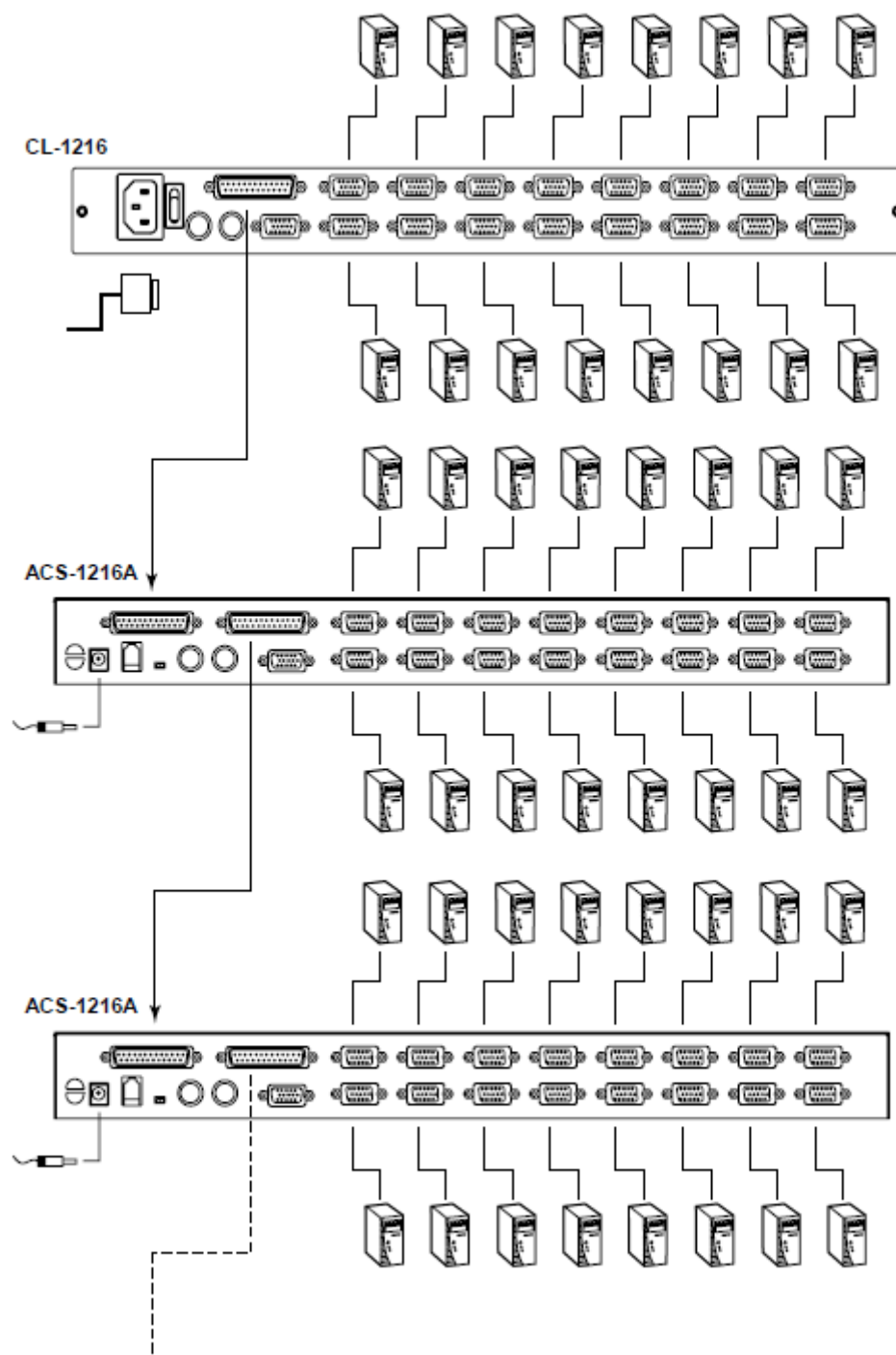
1) 第 1 ステーション (CL-1208/CL-1216) の電源をオンにしてください。ユニットがそのステーション ID を検出するまで、数秒間そのままお待ちください。

2) 第 2 ステーション、第 3 ステーションというように、順に各ステーションの装置の電源アダプタを差し込んでください。

ACS-1208A/ACS-1216A のフロントパネルにはステーション ID を示す LED ディスプレイがあり、第 1 段階のステーションは 01、第 2 段階のステーションは 02、第 3 段階のステーションは 03…というように表示されます。

ステーション ID が検出されて LED ランプが表示されるのを待ってから、次のステーションの電源アダプタを差し込むようにしてください。

3) 全てのステーションの接続が完成した後、コンピュータの電源をオンにしてください。



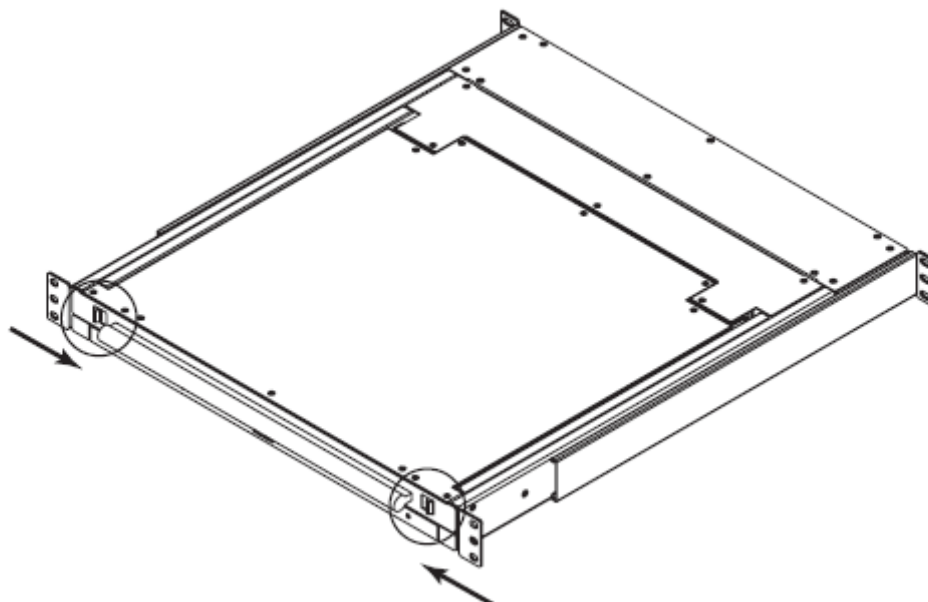
第3章 基本操作

コンソールの引き出し

CL-1208/CL-1216 コンソールはラック内収納時カバーが閉じた状態になっています。コンソールを使用する際は、まずコンソール本体をラックから引き出してカバーを開けます。

注意：

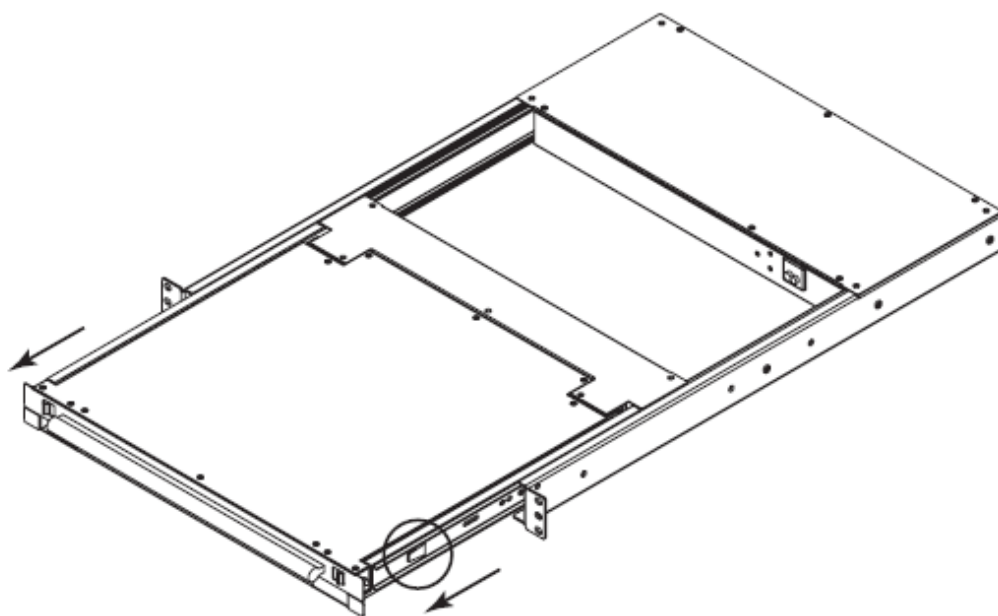
安全のために、コンソールは収納時にラックから滑り出さないようロックされています。コンソールを引き出す前に、まずスライド固定スイッチ(P.12 参照)を内側に移動させてください。



コンソールの収納

コンソールをラック内に収納するには、カバーを閉じた後に、以下の手順に従って作業を行ってください。

1. ユニット両側面のスライドレールには、収納時の誤操作で指を挟む事故を防ぐために、セーフティロック(白いプラスチック製)がついています。セーフティロックの位置は上部カバーの両サイドに印字されています。まず両手で本体手前の両側角を保持し、セーフティロックを指で手前に引っ張り、ロックを外してください。ロックが外れると「カチッ」という音がします。
2. ロックが外れたのを確認したら、本体を軽く手前に引き出した後(5cm 程度)、セーフティロックから指を離します。それから静かに押してラックに収納してください。



LCD OSD 設定

LCD ボタン

LCD OSD で LCD ディスプレイの設定を行います。設定に使用する四つのボタンについては下表をご参照ください。

ボタン	機能
MENU	◆ このボタンを押すと OSD メニューが起動し、メインメニューが表示されます。 ◆ メインメニュー中で項目を選択してこのボタンを押すと、設定画面が表示されます。
	メニュー画面中でこのボタンを押すと、カーソルが右または上に移動します。設定画面中では、設定値を増加させます。
	メニュー画面中でこのボタンを押すと、カーソルが左または下に移動します。設定画面中では、設定値を減少させます。
EXIT	◆ LCD OSD メニュー画面が表示されていないときにこのボタンを押すと、画面の自動調整を行います。自動調整機能は LCD ディスプレイに関するすべての設定を自動で最適化します。 ◆ LCD OSD メニュー画面中でこのボタンを押すと現在のメニュー画面を閉じ、ひとつ上のメニューに戻ります。設定画面において設定が完了したら、このボタンを押すと設定が保存され、上のメニューに戻ります。 ◆ メインメニュー画面でこのボタンを押すと LCD OSD を終了します。

LCD 調整

LCD 調整の各設定についての詳細は下表をご参照ください。

設定	説明
Brightness	バックグラウンドの黒レベルを調整します。
Contrast	画面のコントラスト(ホワイトレベル)を調整します。
Phase	画面の垂直方向サイズを調整します。
Clock	画面の水平方向サイズを調整します。
H-Position	LCD パネルのディスプレイ表示エリアの水平方向位置を調整します。
V-Position	LCD パネルのディスプレイ表示エリアの垂直方向位置を調整します。
Color Temperature	ディスプレイの色あいを調整します。色温度、色バランス、その他を調整できます。Adjust Color では RGB 値を調整できます。
Language	OSD 画面の表示言語を選択します。
OSD Duration	OSD 画面がディスプレイに表示されている時間を設定します。ここで時間を設定しないと OSD 画面が表示されません。
Reset	すべての設定変更をリセットし、工場出荷時の設定に戻します。

ポート選択

CL-1208/CL-1216 は接続されているコンピュータにアクセスするために、**手動/OSD**(オンスクリーンディスプレイ)/**ホットキー**の 3 つの便利な方法を用意しています。OSD 操作は次章で説明します。ホットキー操作は第 5 章で説明します。

手動ポート選択

- ◆ キーボード上部に配置されたポート選択スイッチを押すことで、対応するポートに接続されたコンピュータに KVM フォーカスが移ります。
- ◆ 1 と 2 のスイッチを同時に 2 秒以上押すとキーボードとマウスのリセットを行います。
- ◆ 7 と 8 (CL-1208 の場合)/15 と 16 (CL-1216 の場合)のスイッチを同時に 2 秒以上押すとオートスキャンモード(P.45 参照)を実行します。

ホットプラグ

CL-1216 はホットプラグ機能（ユニットの電源を切らずに、ポートからケーブルを抜くことによって接続装置を取り外したり、新たに装置を接続したりできる機能）に対応しています。このホットプラグ機能を正しく機能させるためには、以下の手順を厳守してください。

◆ ステーション位置の変更：

古い親機からプラグを抜き、新しい親機に差し込むだけの簡単操作で、ステーション位置の変更ができます。変更後は OSD（オンスクリーンディスプレイ）メニューに変更を反映させるために、OSD をリセットしてください。詳しくは、P.38 の Reset Station ID をご参照ください。

◆ CPU ポートへのホットプラグ機能

OSD メニューが接続の変更に対応するためには、OSD の情報を手動で、新しいポートの情報に変更しなければなりません。詳しくは、P.20 の F3 SET、P.22 の F4 ADM の項目をご参照ください。

注意： コンピュータのプラットフォームがホットプラグ機能に対応していないときは、これらの機能は正しく動作しません。

電源オフ、再起動

接続した ACS-1208A/ACS-1216A ユニットのうちの一つの電源を切り、再起動する必要がある場合は、まず ACS-1208A/ACS-1216A リアパネルの電源アダプタを抜いてください。

その後以下の手順に従ってください。

1. 電源を切るユニットに接続している全てのコンピュータをシャットダウンしてください。

注意: キーボード起動機能がついているコンピュータが接続されている場合は、そのコンピュータの電源アダプタも抜かなければいけません。そうしないと電源が供給されている状態のままになっています。

2. 10 秒待った後、ステーションに電源アダプタを接続しなおしてください。

3. ステーションが起動した後、コンピュータの電源を入れてください。

注意: もし 2 台以上のステーションをシャットダウンした場合は、まず最上部のステーションの電源をオンにし、その後順に上部から下部へと電源をオンにしてください。

ポート ID 番号付け

master view™の CPU ポートにはそれぞれ個別のポート ID が割り当てられています。このポート ID はステーション番号とポート番号の 2 つの番号で構成されています。

- ◆ ステーション番号 – デイジーチェーン接続内でのステーション位置を示す 2 桁の数字。

注意:

- 1) 接続の最上部となる CL-1208/CL-1216 のステーション番号は 01 となります。デイジーチェーン接続される 1 台目の master view™ユニット (ACS-1208A/ACS-1216A) のステーション番号は 02 となります。
- 2) デイジーチェーン接続される ACS-1208A/ACS-1216A はフロントパネルにステーション ID を表示する LED があります。

- ◆ ポート番号 – コンピュータが接続されているステーションのポートを示す 2 桁の数字。

- ◆ ステーション番号 – ポート番号の順で表示されています。

◆ 1～9 までのステーションおよびポート番号は、十の位に 0 がつきます。従って、01～09 と表示されます。例えばステーション 12 のポート 6 に接続されたコンピュータは、ポート ID 12-06 となります。

第4章

OSD 操作

OSD 概要

OSD (オンスクリーンディスプレイ) はメニュー形式で表示され、KVM スイッチに接続されているコンピュータの操作・切替えを行う機能です。すべての操作は OSD メインスクリーンから始めます。

OSD メイン画面を表示するには **[Scroll Lock]** キーを 2 度押します。

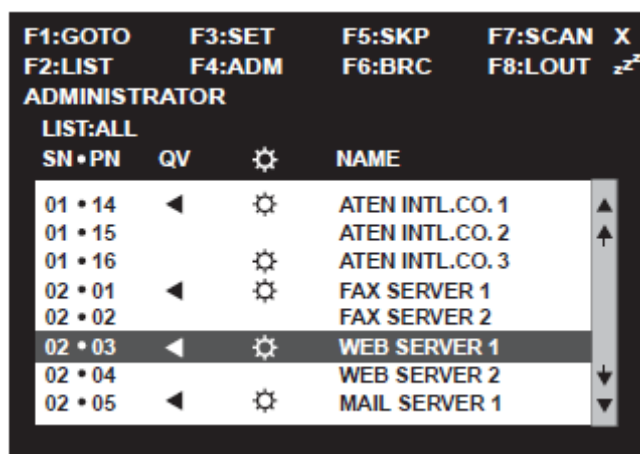
注意:

OSD を表示するホットキーは、**[Scroll Lock]** キー 2 度押しから **[Ctrl]** キー 2 度押しに変更することもできます (P.32 参照)。この場合の **[Ctrl]** キーはキーボードの同じサイドのものを使ってください。

OSD は 2 レベル (アドミニストレーター/ユーザー) のパスワード保護がされています。OSD メイン画面が表示される前に、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。管理者によってパスワードが設定されている場合は、OSD メイン画面にアクセスするには有効なユーザーネームとパスワードを入力しないといけません。

OSD を始めて使用するときにはパスワードはまだ設定されていないので、入力画面で **[Enter]** キーを 2 度押ししてください。OSD メイン画面はアドミニストレーターモードで表示されます。このモードではユーザーはアドミニストレーター権限を持ち、パスワードの設定も含めすべての機能を使用することができます。

OSD が起動したら、以下のような画面が表示されます。



注意：

- 1) この画面はアドミニストレーターモードのものです。ユーザーモードではアドミニストレーターのみが使用できる F4、F6 ファンクションは表示されません。
- 2) OSD は常にリスト表示され、選択時に使用するハイライトバーは前回 OSD 終了時の位置を復元して表示されます。
- 3) ユーザーモードでは、管理者によってそのユーザーにアクセス権限が与えられているポートのみが表示されます。

OSD ナビゲーション

- ◆ メニューを閉じて OSD を終了するには、OSD メイン画面右上にある × マークをクリックするか、[Esc] キーを押してください。
- ◆ ログアウトするには OSD メイン画面上部の [F8] または  マークをクリックするか、[F8] キーを押してください。
- ◆ リスト表示の上下の行に移動したい場合は、三角マーク (▲ ▼) をクリックするか、キーボードの上下の矢印キーを押してください。表示されているリスト以外にも多くのエントリがある場合には、リスト画面がスクロールします。
- ◆ リスト表示の画面を上下に切り替えたい場合は、矢印マーク (↑ ↓) をクリックするか、キーボードの [Page Up] [Page Down] キーを押してください。表示されているリスト以外にも多くのエントリがある場合には、リスト画面がスクロールします。
- ◆ KVM 操作するポートを切替える場合は、リスト画面でクリックするか、ハイライトバーを移動させて [Enter] キーを押してください。
- ◆ 何らかのアクションを実行したあとは、自動的に一段上のメニューに戻ります。

OSD メイン画面説明

見出し	説 明
PN	この項目はポート ID 番号(ポート ID 番号の詳細は、P.27 を参照)です。すべての CPU ポートに番号があります。簡単な切替え方法としてハイライトバーを移動し [Enter] を押すこともできます。
QV	クイックビュー時に表示するポートを選択(クイックビューポート設定の詳細は、P.16 を参照)すると、QV の項目には矢印が表示されます。
	電源がオンになっていて、かつ、オンラインになっているコンピュータはこの太陽マークが表示されます。
Name	ポートに対して名前を登録(ポート名前編集の詳細は、P.36 を参照)した場合、この項目にポート名前が表示されます。

OSD ファンクション

OSD ファンクションでは、OSD 操作に関する以下のような設定を行います。

- ・任意のポートへのクイックアクセス
- ・特定のポートのオートスキャン
- ・ポートへのアクセス権限の設定
- ・クイックビューポートの設定
- ・ポートネームの編集
- ・ユーザー管理
- ・システム管理
- ・OSD 設定

OSD ファンクションにアクセスするには：

1. メイン画面上部にあるファンクションキーをクリック、またはお使いのキーボードのファンクションキーを押してください。
2. サブメニューの選択は、サブメニュー名をダブルクリックするか、リスト表示でハイライトバーを移動させ、「Enter」キーを押してください。
3. [Esc]キーを押すと一段上のメニューに戻ります。

◆ F1 GOTO

GOTO 機能により、直接ポートネーム、もしくはポート ID を入力することで、ポート切替えが可能です。

◆ 切替えにポートネームを使用する場合は、まず[1]キーを押し、ポートネームを入力後[Enter]を押してください。

◆ 切替えにポート ID 番号を使用する場合は、まず[2]キーを押し、ポート ID 番号を入力後[Enter]を押してください。

注意: ポートネーム、もしくはポート ID の頭文字を入力すると、条件に当てはまるポートがリスト表示されます(アクセスポートの設定詳細は、P.37 を参照)。ポートネームとポート ID のリスト表示は設定に依存します(詳細は F2 LIST を参照)。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc]キーを押してください。

◆ F2 LIST

この機能を用いて、OSD がメイン画面に表示するポートの範囲を広げたり、狭めたりすることができます。OSD ファンクションの多くは、メイン画面のリストに表示されている中から、選択されたコンピュータだけを操作します。下記の表は、サブメニュー画面の選択肢とその意味です。

選 択 肢	意 味
ALL	コンピュータが接続されているポート全てをリストアップします。
QUICK VIEW *	クイックビューポート(P.37 参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON	電源が入っているコンピュータに接続されているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON	クイックビューポート(P.37 参照)として選択され、かつ電源がオンのコンピュータが接続されたポートをリストアップします。

* アドミニストレーターのみがクイックビューポートの設定を行うことができます(詳細は、P.37 を参照)。

ポートを選択するには、リストでハイライトバーを移動して[Enter]キーを押してください。切替わるとアイコンが現われ、現在選択したポート ID を表示します。

◆ F3 SET

この機能は各ユーザーの使用環境の設定をします。それぞれのプロファイルは OSD 内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。

設定変更をするには、F3 SET の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ[Enter]キーを押してください。

次に表示されたサブメニューの、変更したい項目をダブルクリック、もしくはハイライトバーを移動して[Enter]キーを押します。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下記のリストをご参照ください：

設 定	機 能
OSD HOTKEY	OSD メインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] 2 度押しまたは [Ctrl] 2 度押し [Ctrl]キーの組み合わせは、コンピュータで使用中のプログラムに対して不都合がある可能性があるので、デフォルトは[Scroll Lock]キーの組み合わせになっています。
PORT ID DISPLAY POSITION	画面のどこにポート ID ディスプレイを表示するかを決めます。デフォルトでは画面の左上ですが、画面の任意の位置にポート ID を表示することができます。 ポート ID の表示位置を決めるには、マウスまたは矢印キーと[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、そして[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を用います。それから、ダブルクリックまたは[Enter]を押して位置を定め、F3 SET のサブメニュー画面に戻します。
PORT ID DISPLAY DURATION	ポートの変更が行われた後、モニタ画面にポート ID を表示する時間を決定します。 User Defined: ユーザー設定 (1～255 秒間) Always On: ポート ID を常に表示 User Defined を選択した場合は、秒数を入力しその後[Enter]を押してください。デフォルトでは 3 秒間です。0 秒で設定するとこの機能を使用不可にします。

(この表は次ページに続く)

(F3 SET の続き)

設 定	機 能
PORT ID DISPLAY MODE	ポート ID 表示方法を選択します。ポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポート ネームのみ (PORT NAME)、または、ポート番号とポートネームの組み合わせ (PORT NUMBER + PORT NAME) があります。デフォルトではポート番号 とポートネームの組み合わせです。
SCAN DURATION	オートスキャンモード (P.41 の F7 SCAN をご参照ください) で選択されたポート それぞれを循環して表示する際のインターバル時間を設定します。1～255 秒 までの秒数を入力し、その後 [Enter] を押してください。デフォルトは 5 秒間 です。0 秒で設定すると SCAN 機能を使用不可にします。
SCAN/SKIP MODE	スキップモード (P.39 をご参照ください) とオートスキャンモード (P.41 をご参照く ださい) を実行する際、どのコンピュータにアクセスするかを設定します。選択 方法は以下の 4 つです。 ALL — ユーザーがアクセス可能な全てのポート (P.37 参照) POWERED ON — アクセス可能で、かつ、電源が入っているポートのみ QUICK VIEW — アクセス可能で、かつ、クイックビューポート (P.参照) として 設定されたポートのみ QUICK VIEW + POWERED ON — アクセス可能で、クイックビューポイント として設定され、かつ電源が入っているポートのみ デフォルトは、ALL になっています。
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力が無い場合、画面はブラン クになります。1～30 分までの時間を入力してから、[Enter] を押します。0 分 で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは 0 分 (不可) となってい ます。
HOTKEY COMMAND MODE	ホットキー操作がコンピュータで動作中のプログラムと競合がある場合などに、 ホットキーコマンドの機能を使用可能/不可を切替えます。デフォルトでは ON 使用可能になっています。

◆ F4 ADM

F4 ADM はアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能によりアドミニストレーターは OSD の操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で **F4 ADM** をダブルクリックするか、または上下の矢印キーを使ってハイライトバーを移動させ、**[Enter]**を押します。

設定したい項目を選択すると、その下のサブメニューが表示されます。選択したいものをダブルクリックするか、または、ハイライトバーをそこまで移動させたあと、**[Enter]**を押します。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下記の表の通りです。

設 定	機 能
SET USERNAME AND PASSWORD	この機能でユーザー名とパスワードを設定します。 1. アドミニストレーター1 人およびユーザー4 人のパスワードが設定できます。 2. ユーザーフィールド、またはアドミニストレーターフィールドのうち、1 つを選択すると、ユーザー名とパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザー名とパスワードは英数字(A～Z, 0～9) のうち、最大 15 文字までの組み合わせが可能です。 3. 各人のユーザー名とパスワードを入力したあと、[Enter]を押します。 4. 以前のユーザー名またはパスワードを修正・消去する場合は、文字と数字をバックスペースキーで消してください。 注意: ユーザー名とパスワード情報をすべて消去して工場出荷時の状態に戻すには、P.59 のログイン情報の消去をご参照ください。
SET LOGOUT TIMEOUT	この機能で設定した時間、コンソールからの入力が無い場合、オペレータは自動的にログアウトされ、コンソールを再び使用する前にもう一度ログインが必要となります。 この機能はあるオペレータがもうコンピュータにアクセスする必要がなくなったのにログアウトを忘れた場合、他のオペレータがそのコンピュータにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの設定は、1～180 分までの数値を入力し、[Enter]を押します。0 分で設定すると、この機能を使用不可にします。デフォルトは 0 分(不可)となっています。

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
EDIT PORT NAMES	どのポートにどのコンピュータが接続されているか覚えやすくするために、各ポートに名前をつけることができます。アドミニストレータはこの機能でポートネームを設定したり、編集したり、削除したりすることができます。 ポートネームを編集するには、 1. 編集したいポートをクリックするか、そこにナビゲーションキーを使ってハイライトバーをそこに移動させます。そして、[Enter]を押します。 2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正、または、削除してください。ポートネームを入力できる最大文字数は 15 文字で、以下の文字が使用できます。 ◆ アルファベット全て: a～z ; A～Z ◆ 数字全て: 1～9 ◆ 記号: + - / : . およびスペース 大小文字は関係ありません。OSD では、どのように入力されたかにかかわらずすべて大文字で表示されます。 3. ポートネームの編集が終了したときは、[Enter]を押して、その変更を有効にしてください。変更を途中で止める際には、[Esc]を押してください。
RESTORE DEFAULT VALUES	この機能は、変更された設定すべてをデフォルト値に戻します。ただし、ポート識別を補助するポートネームの設定及びクイックビュー設定だけは、保持されます。
CLEAR THE NAME LIST	この機能は RESTORE DEFAULT VALUES とよく似ていますが、異なる点は変更された設定すべてをデフォルト値に戻すとともに、ポートネームとクイックビュー設定をも削除します。
ACTIVATE BEEPER	ビープ音の設定を行います。Y(ビープ音有)を選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(P.41 参照)が有効になっている時、または、OSD メニューで無効な入力がされた時は常にビープ音が鳴ります。デフォルトは Y(有)となっています。

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
SET QUICK VIEW PORT	どのポートをクイックビューポートとして選択するかを設定します。 注意: 現在 OSD 画面でリストビューとして選択されているポートのみが表示されます。 ◆ クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、クイックビューポートにしたいものをダブルクリックするか、上下の矢印[↑][↓]キーを使用してハイライトバーを移動させた後、[スペースキー]を押してください。 ◆ ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」列に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、矢印は表示されません。 ◆ F2 LIST (P.32 参照)にクイックビューオプションの一つが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ◆ もし、オートスキャン機能 (P.41 をご参照ください)にクイックビューのオプションのうち 1 つが選択された場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。 デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。
SET ACCESSIBLE PORT	この機能でアドミニストレーターはポートごとにユーザーのアクセス権を決定できます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、そのあと[スペースキー]を押して、F(フルアクセス) / V(見るのみ) / ブランクという選択肢の間を循環させます。全てのアクセス権を設定するまでこの動作を繰り返し、それから[Esc]を押します。デフォルトは、全てのポートの全てのユーザーに対し、F(フルアクセス)となっています。 注意: ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。そのポートはメイン画面のユーザーのリストには表示されません。

(この表は次ページに続く)

(F4 ADM の続き)

設 定	機 能
RESET STATION IDS	デ이지チェーン内のステーション構成を変更した場合、OSD は変更後の状態を即座に反映させることができません。この機能を実行して OSD で構成の再検出を行い、新しい物理的構成をリスト表示させる必要があります。 注意: この機能でアップデートされるのはステーション番号のみです。ポートネーム、アドミニストレーター権限による設定 (アクセス可能ポートの設定、クイックビューポートの設定等) を除いて、ステーション構成の変更によって影響を受けるすべての設定は手動で設定しなおさなくてはなりません。
FIRMWARE UPGRADE	CL-1208/CL-1216 のファームウェアをアップグレードする場合 (P.50 参照) は、最初にこの機能でファームウェアアップグレードモードにしなくてはなりません。 このメニューを起動すると、現在のファームウェアバージョンが表示されます。[Y]を押すとファームウェアアップグレードモードになり、[N]を押すとこのメニューを終了します。
SET PS/2 CLK MODE	リストで対象のコンピュータを選択してスペースキーを押すと以下の設定を循環して設定することができます。 0: PS/2 CLK delay=Off; ASIC filter=On 1: PS/2 CLK delay=On; ASIC filter=Off 2: PS/2 CLK delay=Off; ASIC filter=Off デフォルトは 0 になっています。コンピュータの使用で問題が発生した場合を除き、デフォルトの設定を使用してください。DELL 社製サーバ 1655MC を使用して問題が発生した場合は、1 に設定してください。
SET CONSOLE MODE	LCD コンソールおよび外部コンソールの使用について設定します。 0: 両方のコンソールが使用可能 1: LCD コンソールのみ使用可能 2: 外部コンソールのみ使用可能 スペースキーを使用して設定してください。デフォルトは 0: 両方のコンソールが使用可能になっています。

◆ F5 SKP

F5 SKP をクリックするか、または[F5]を押して、スキップ(SKIP)モードを呼び出します。この機能により、現在表示しているコンピュータの前後の有効なポートに簡単にスキップすることができます。

◆ スキップモードによる切替えが利用できるコンピュータは、**F3 SET** の **SCAN/SKIP MODE** (P.34 参照)で選択します。

◆ スキップモードの操作は以下の通りです。

[←]を押すと、リスト表示中の一つ前のコンピュータに切り替わります。

[→]を押すと、リスト表示中の一つ後ろのコンピュータに切り替わります。

[↑]を押すと、接続の一つ前にあるステーションの、最後のポートに接続されたコンピュータに切り替わります。

[↓]を押すと、接続の一つ後ろにあるステーションの、最初のポートに接続されたコンピュータに切り替わります。

注意: スキップ機能で切替えるときは、SCAN/SKIP モードで選択されているポートに移動します。

◆ もし、ポートがスキャン/スキップモードとして選択されていたならば、ポート ID ディスプレイの前に左/右向き三角形が表示されます。(フォーカスがそのポートに切り替わる時)

◆ スキップモードが有効になっている時には、コンソールは機能しません。コンソールを使用するには、スキップモードを解除してください。

◆ スキップモードを解除するには、[スペースキー]または[Esc]を押してください。

◆ F6 BRC

F6 BRC ブロードキャストモードはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。**F6 BRC** をクリックするか、**[F6]**を押して、BRC ブロードキャストモードを呼び出してください。この機能を有効にすると、コンソールから送られたコマンドは接続中の利用できるコンピュータ全てに実行されます。この機能は、広くシステムをシャットダウンさせたり、アップグレードさせるソフトウェアをインストールしたりするなど、複数のコンピュータを操作する必要がある時に、非常に便利です。

BRC 機能は、**F2 LIST** (P.32 参照)と併せて使用します。LIST 機能は OSD メイン画面に表示するポートの範囲を広げたり、狭めたりするのに使用されます。OSD メイン画面に現在表示されたポートに対して、コマンドを同時に実行します。

- ◆ BRC モードが有効な時は、現在 KVM 操作をしているポートのポート ID ディスプレイの前にスピーカーマークが表示されます。
- ◆ BRC モードが有効な間は、マウスが機能しません。マウスを使用するときは、BRC モードを解除してください。
- ◆ BRC モードを解除するには、ホットキーで OSD を呼び出し、それから **F6 BRC** をクリックするか、**[F6]**を押してください。

◆ F7 SCAN

F7 SCAN をクリックするか、[F7]を押すと、オートスキャンモードが呼び出せます。この機能は一定間隔にて設定されたコンピュータを自動的に切替えて表示することができます。これにより、手動で切替える手間をかけずに複数のコンピュータの動作を監視できます。

◆ F3 SET で設定されたスキャン/スキップモード(P.34 参照)を使用して、オートスキャンするコンピュータを選択します。

◆ 各ポートを表示する時間は、F3 SET 機能の SCAN DURATION(P.34 参照)で設定できます。

◆ 各コンピュータにオートスキャンモードでアクセスされている場合、ポート ID ディスプレイの前に S の文字が表示されます。

◆ オートスキャンモード中、スキャンを一時停止して特定のコンピュータにフォーカスしたい場合は、[P]を押すかマウスの左ボタンをクリックしてください。詳しくは、P.46 のオートスキャンの呼び出しをご参照ください。

◆ スキャンを停止して特定のポートにアクセスする場合は、そのポートをスキャン中、[スペースキー]を押してオートスキャンモードを終了してください。もしスキャンがコンピュータの接続されていないポートにある、または接続されているが電源オフになっているポートに来ている場合は、モニタ画面はブランクになり、マウスやキーボードは機能しません。SCAN DURATION で設定した時間経過後、表示は次のポートへと移動します。

◆ オートスキャンモードが動作中は、コンソールは機能しません。コンソールを使用する場合は、オートスキャンモードを解除してください。

◆ オートスキャンモードを解除するには、[スペースキー]または[Esc]を押してください。

◆ F8 LOUT

F8 LOUT をクリックするか[F8]を押すと、コンピュータの OSD 操作からログアウトし、コンソール画面をブランク(空白)にします。この操作は、OSD 画面から出るために[Esc]を押すのとは異なります。[Esc]操作では、再度 OSD 画面を表示するためには OSD ホットキーを押すだけなのに対し、この機能では OSD にアクセスするのに、再度ログインしなければなりません。

注意:

1. OSD からログアウト後に再び OSD を表示した場合、OSD メインメニュー以外は表示されません。ユーザー名とパスワードを入力後、使用可能になります。
2. ログアウト後に再び OSD を表示し、メニューからポートを選択しないで[Esc]キーを使用して OSD を閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面には **Null Port** 無効ポートメッセージが表示されます。

第 5 章

ホットキー操作

ホットキーによるポートアクセス

ホットキーによって、キーボードから直接特定のコンピュータに KVM コントロールを切替えることができます。CL-1208/CL-1216 は、以下のようなホットキーポートアクセス機能を備えています。

- ◆アクティブなポートの選択
- ◆オートスキャン
- ◆前後のポートへの切り替え

ホットキーモードの呼び出し

1. ホットキーによる全ての操作は、まず HKM(ホットキーモード)を呼び出してから行います。ホットキーモードの呼び出しは、次の手順で行います。

- 1) [Num Lock]キーを押したまま
- 2) [-]マイナスキーを押し、離します。
- 3) [Num Lock]キーを離します。

[Num Lock] + [-]

ホットキーモードが有効になったら:

- ◆ Caps Lock と Scroll Lock の LED が交互に点滅し、HKM が有効になったことを示します。
- ◆ 画面にコマンドラインが表示されます。青い背景に黄色の文字で入力したホットキーコマンドが表示されます。
- ◆ 通常のキーボード・マウス入力は無効になり、ホットキー入力およびマウスのクリックのみが有効になります。
- ◆ ホットキーモードではテンキー使用に制限があります。[-]マイナスキーは使用できますが、数字の入力は無効となり、対応する矢印キーとして動作してしまいます。数字の入力はキーボード上部に並んでいるキーを使用してください。
- ◆ [Esc]を押すと HKM を終了します。

アクティブなポートの選択

ポート選択

それぞれの CPU ポートは、ポート ID を割り当てられています(ポート ID 番号、P.38 参照)。ホットキーを用いて、このポート ID を指定することにより CPU ポートに接続されたコンピュータに直接アクセスすることが可能になります。このステップ方法は以下のようになります:

1. HKM を実行してください(前ページ参照)
2. 切替えるコンピュータのポート ID 番号を入力

ポート ID 番号はディスプレイ上にコマンドラインにて表示されます。もし間違った番号を入力した場合は[Backspace]キーにて修正してください。

3. [Enter]キーを押してください。

KVM は指定されたポート ID に接続されたコンピュータに切替り、ホットキーモードは自動的に解除されます。

オートスキャン

オートスキャンモード時は、現在のオペレータがアクセス可能なすべての CPU ポートに対し、一定の間隔(Scan/Skip Mode:P.34 参照)で切替えながらモニタ表示をします。この機能は複数のコンピュータの動作を自動的に監視するのに便利です。

スキャン間隔の設定

オートスキャンで各ポートを表示するインターバル時間の設定は、OSD の F3 SET 機能(P.47 参照)で行いますが、以下の手順によってホットキー操作によっても設定を変更することが可能です。

1. HKM を実行してください(詳細は、P.57 を参照)

2. [T] , [n]とキー入力してください。

[T]は[T]キー、[n]は任意の数字です。1～255 秒の間で設定してください。

[T]のキーと入力した数字はコマンドライン上に表示されます。もし間違った場合は[Backspace]キーで修正してください。

3. [Enter]キーを押してください

[Enter]キーを押した後は、自動的に HKM は解除され、指定のとおりオートスキャンモードを実行する設定になっています。

オートスキャン呼び出し

オートスキャンを開始させるホットキーの組み合わせをご参照ください:

1. HKM を実行してください(詳細は、P.57 を参照)
2. [A]キーを押してください。

[A]キーを押した後、自動的に HKM は解除され、オートスキャンモードになります。

◆ オートスキャンモードで動作中、特定のポートで[P]キーを押す、もしくは、マウスの左クリックを行うと一時停止状態になります。この状態の時は、コマンドライン表示により、*Scan: Paused*と表示されます。

オートスキャン状態をストップするには 2 つの方法があり、一つがこの一時停止機能です。一時停止機能はオートスキャンモードを完全に終了させるよりも便利です。オートスキャンを終了してしまうと、次に再開したときは構成の最初のコンピュータからスキャンを行うことになりますが、一時停止からのスキャン再開は、停止していたポートの次のポートからスキャンされます。

一時停止からの再開は、任意のキーを入力する、もしくはマウスを左クリックしてください。

◆ オートスキャンモード時は、通常のキーボード入力とマウス機能は無効になります。オートスキャン中に実行可能なキー入力とマウスクリックのみ可能となります。通常のキー入力を行う場合は、オートスキャンモードを終了してください。

3. オートスキャンモードを完全に終了する場合は、[Esc]または[スペースキー]を押します。この操作によって、いつでもオートスキャンモードを終了させることができます。

スキップモード

この機能では、コンピュータからコンピュータへの切替えが手動になります。固定した間隔で自動的に切替わるオートスキャンモードとは対照的に、スキップモードでは特定のポート表示時間が自由になります。以下のホットキー組み合わせによって、スキップモードを実行してください：

1. HKM を実行してください(詳細は、P.57 を参照)
2. [矢印]キーを入力してください

◆ キーボードの[矢印]キーを使います。矢印キーを押した後は、自動的に HKM は解除されます。以下のホットキーの組み合わせを入力してください：

[←]を押すと、現在のポートより一つ前のアクセス可能なコンピュータに切替わります。

[→]を押すと、現在のポートより一つ後ろのアクセス可能なコンピュータに切替わります。

[↑]を押すと、接続の一つ前にあるステーションの、最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在 1 台目のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、最後のステーションの最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。

[↓]を押すと、接続の一つ後ろにあるステーションの、最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在最後のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、1 台目のステーションの最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。

◆ 一旦スキップモードを実行すると、矢印キーを押す度に、スキップ操作を実行できます。毎回ホットキーモード呼び出しの操作をする必要はありません。

◆ スキップモードを実行している間、通常のキーボードとマウス機能は、サスペンドされます。スキップモード中に有効なキー入力のみ可能となります。通常のキー操作をする必要がある場合は、スキップモードを終了してください。

3. スキップモードを終了するには、[Esc]または[スペースキー]を押してください。

ホットキービーブ音コントロール

ビーブ音のオン/オフ(P.36 参照)はホットキーでも設定できます。ホットキー組み合わせは以下のようになっています。

1. HKM を実行してください(P.43 参照)。
2. [B]キーを押してください。

[B]キーを押すことで、ビーブ音の設定はオン/オフが切り替わります。設定確認のためコマンドラインで Beeper On/Beeper Off の文字が 1 秒間表示されます。また操作後に HKM は自動的に解除されます。

ホットキー一覧表

[Num Lock] + [*]	[ポート ID] [Enter]	入力したポート ID のポートに接続されたコンピュータにアクセスします。
	[T] [n] [Enter]	オートスキャンのインターバルを設定します。[n]は秒数を示し、1～255 秒の間で設定します。
	[A]	オートスキャンモードを実行します。 オートスキャンモード時は、[P]または左クリックで一時停止になります。 オートスキャンが一時停止状態で、任意のキーを押す、または左クリックすることによって、オートスキャンを再開します。
	[←]	スキップモード時に、現在のポートより一つ前のアクセス可能なコンピュータに切替わります。
	[→]	スキップモード時に、現在のポートより一つ後ろのアクセス可能なコンピュータに切替わります。
	[↑]	スキップモード時に、接続の一つ前にあるステーションの、最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在 1 台目のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、最後のステーションの最後のポートに接続されたコンピュータに切替わります。
	[↓]	スキップモード時に、接続の一つ後ろにあるステーションの、最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。現在最後のステーションのポートに接続されたコンピュータを表示している場合は、1 台目のステーションの最初のポートに接続されたコンピュータに切替わります。
	[B]	ビープ音のオン/オフを交互に切替えます。

第 6 章

ファームウェア アップグレードユーティリティ

Windows ベースのファームウェアアップグレードユーティリティは、スムーズかつ簡単な操作で KVM スイッチのファームウェアをアップグレードすることができます。

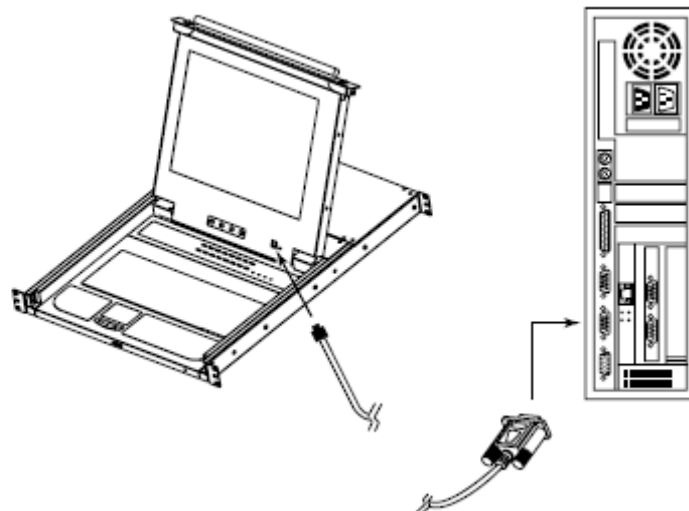
ファームウェアアップグレードパッケージはデバイス別に用意されています。新しいファームウェアパッケージは弊社 web サイトで公開されます。機器を最新の状態に保つために、定期的に弊社 web サイトをご覧ください。

<http://www.atenjapan.jp/>

アップグレードの前に

ファームウェアアップグレードの前に以下の手順に従って準備を行ってください。

1. KVM スイッチに接続されているコンピュータとは別に、インターネット接続可能なコンピュータを用意してください。弊社 web サイトにアクセスして製品型番で検索し、ファームウェアのリストから必要なパッケージを選択してください。
2. 最新版のファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードし、コンピュータの任意のディレクトリに保存してください。
3. 同梱のファームウェアアップグレードケーブルを使用して、ファームウェアアップグレードパッケージを保存したコンピュータの COM ポートと CL-1208/CL-1216 のファームウェアアップグレードポートを接続してください。



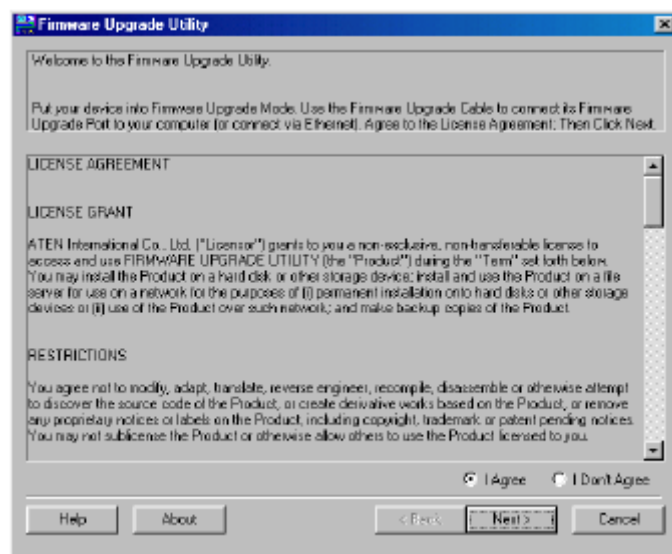
注意: スイッチにデジチェーン接続をしている場合は、デジチェーンケーブルを通してアップグレードデータが構成のすべての KVM スイッチに送られます。

4. KVM スイッチのポートに接続されているすべてのコンピュータの電源をオフにしてください。スイッチの電源はオンのままにしておいてください。
5. CL-1208/CL-1216 コンソールで OSD 画面を起動し、**F4 ADM** ファンクションを呼び出してください。
6. **FIRMWARE UPGRADE** を選択し、**[Enter]**を押して機能呼び出ししてください。現在のファームウェアのバージョンが表示されます。ダウンロードしたパッケージのバージョンが新しいことを確認したら、**[Y]**を押してファームウェアアップグレードモードを実行します。

アップグレード開始

以下の手順に従ってアップグレード作業を進めてください。

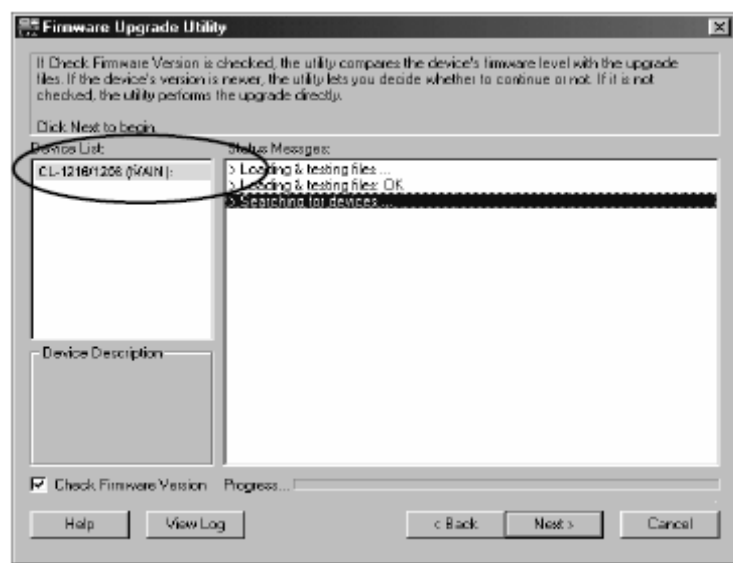
1. ダウンロードしたファームウェアアップグレードパッケージをダブルクリックまたはコマンドラインでフルパスを入力して実行します。以下のようなライセンス認証確認画面が表示されます。



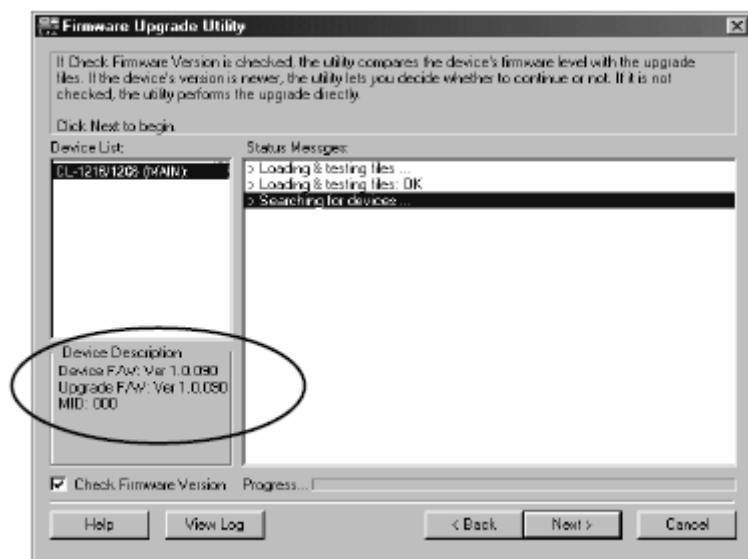
注意：実際に表示される確認画面はこのスクリーンと異なる場合があります。

2. ライセンス規約に同意したら「I Agree」ラジオボタンをオンにして、「Next」を押して次に進んでください。

3. 「Next」を押すとファームウェアアップグレードユーティリティ メイン画面が表示されます。Device List フィールドに、アップグレード可能なデバイスが表示されます。

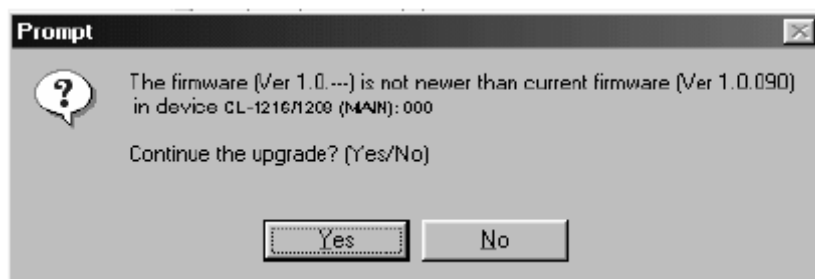


4. 「Device List」フィールドで選択されたデバイスの詳細が、画面左下の「Device Description」パネルに表示されます。



5. デバイスを選択後、「Next」をクリックしてアップグレードを実行します。

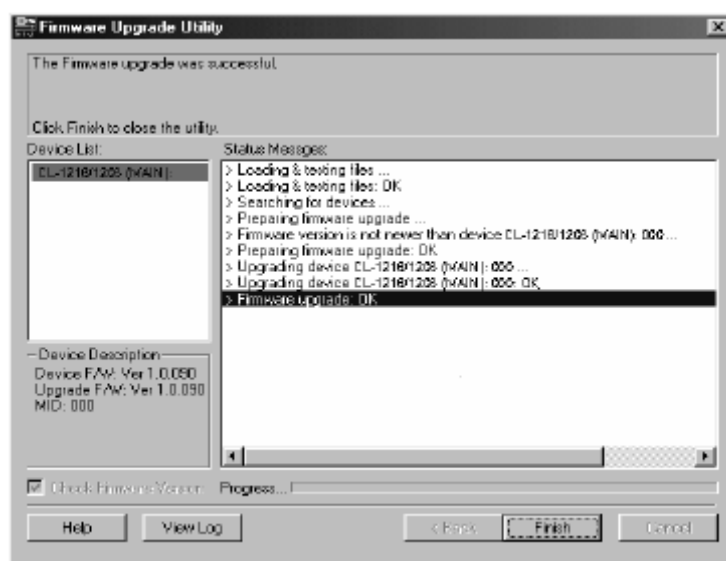
Check Firmware Version にチェックが入っている場合は、ユーティリティは現在のファームウェアバージョンとアップグレードパッケージのバージョンを比較します。もし現在使用のバージョンがアップグレードパッケージよりも高い場合は、このようなダイアログボックスが表示され、アップグレード実行継続/中止の確認を行います。



Check Firmware Version にチェックが入っていない場合、ユーティリティはバージョン比較をせずにアップグレードを行います。アップグレードの進捗状況はステータスフィールドとプログレスバーで表示されます。

アップグレード成功

アップグレード完了後、アップグレード成功のメッセージが表示されます。



「Finish」を押してファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。

アップグレード失敗

アップグレード成功画面が表示されない場合は、アップグレードが正常に終了しなかったことを意味します。次ページのファームウェアアップグレードリカバリーに従って、アップグレードを完了させてください。

ファームウェアアップグレードリカバリー

ファームウェアアップグレードリカバリーが必要となるのは以下の 3 つの場合です：

- ◆ ファームウェアアップグレードモードを有効にしたが、その後アップグレードを行わなかった場合
- ◆ メインボードのファームウェアアップグレードが失敗した場合
- ◆ I/O ファームウェアアップグレードが失敗した場合

ファームウェアアップグレードリカバリーは以下の手順に従って行ってください。

1. スイッチの電源をオフにしてください。デジチェーン接続を行っている場合は、構成から外してください。
2. ファームウェアアップグレードケーブルを本体リアパネルのファームウェアアップグレードポートに接続してください。
3. ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「Recover」ポジションにしてください。
4. スイッチの電源をオンにし、通常の手順に従ってアップグレードを行ってください。
5. スイッチのアップグレードが成功したら、電源をオフにし、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「Normal」ポジションに戻してください。
6. デジチェーン接続を行っていた場合は、スイッチを構成に戻してください。
7. スイッチの電源をオンにしてください。

コンピュータ接続表

以下の表は master view™スイッチの台数とデイジーチェーン接続を利用して接続できるコンピュータの最大数の関係を示したものです。

CL-1208+ACS-1208A

MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ
1	1 - 8	9	65 - 72	17	129 - 136	25	193 - 200
2	9 - 16	10	73 - 80	18	137 - 144	26	201 - 208
3	17 - 24	11	81 - 88	19	145 - 152	27	209 - 216
4	25 - 32	12	89 - 96	20	153 - 160	28	217 - 224
5	33 - 40	13	97 - 104	21	161 - 168	29	225 - 232
6	41 - 48	14	105 - 112	22	169 - 176	30	233 - 240
7	49 - 56	15	113 - 120	23	177 - 184	31	241 - 248
8	57 - 64	16	121 - 128	24	185 - 192	32	249 - 256

CL-1216+ACS-1216A

MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ	MV	コンピュータ
1	1 - 16	9	129 - 144	17	257 - 272	25	385 - 400
2	17 - 32	10	145 - 160	18	273 - 288	26	401 - 416
3	33 - 48	11	161 - 176	19	289 - 304	27	417 - 432
4	49 - 64	12	177 - 192	20	305 - 320	28	433 - 448
5	65 - 80	13	193 - 208	21	321 - 336	29	449 - 464
6	81 - 96	14	209 - 224	22	337 - 352	30	465 - 480
7	97 - 112	15	225 - 240	23	353 - 368	31	481 - 496
8	113 - 128	16	241 - 256	24	369 - 384	32	497 - 512

OSD デフォルト設定一覧

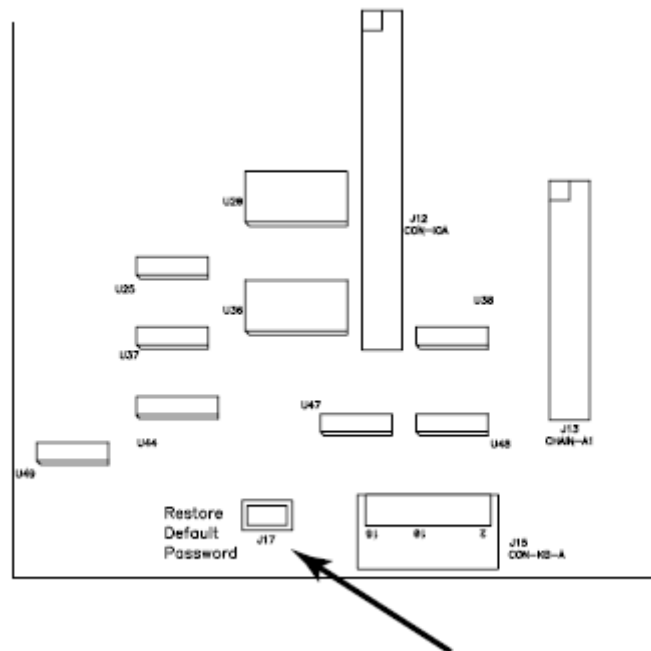
工場出荷時の OSD デフォルト設定は以下の表のようになっています。

項 目	初 期 設 定
OSD Hotkey	[Scroll Lock] 2 度押し
Port ID Display Position	画面左上隅
Port ID Display Duration	3 秒
Port ID Display Mode	ポート番号 + ポートネーム
Scan Duration	5 秒
Scan/Skip Mode	ALL
Screen Blanker	0 秒 (使用不可)
Logout Timeout	0 秒 (使用不可)
Beeper	Y (ビープ音有り)
Accessible Ports	F (フルアクセス) – すべてのユーザーがすべてのポートにアクセス可能

ログイン情報の消去

パスワードを忘れる、その他何らかの理由でアドミニストレーター権限のログインができなくなった場合、下記の手順ですべてのログイン情報を消去することができます。

1. スイッチの電源をオフにして、本体ケースを開けてください。
2. 下図で示した場所にある、Restore Default Password の J 17 ジャンプスイッチをショートさせてください。



3. そのままスイッチの電源をオンにしてください。LCD 画面に以下のようなメッセージが表示されます。

USER NAME AND PASSWORD INFORMATION HAS BEEN CLEARED.

PLEASE POWER OFF THE SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE THE CASE, THEN RESTART.

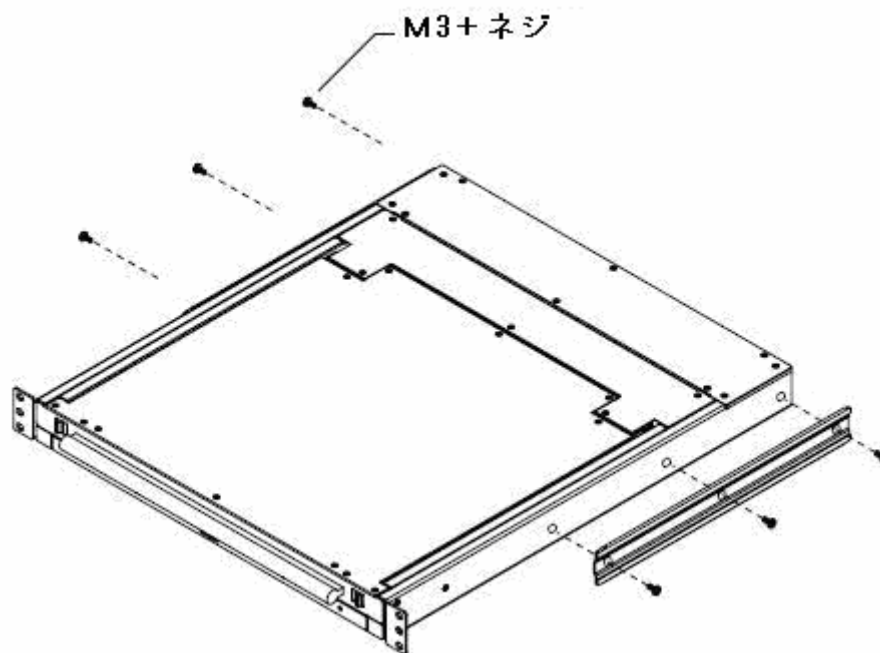
4. スイッチの起動後、OSD に対するログインは初回起動時の状態に戻っています。P.28 を参考にログインしてください。

ラックマウント

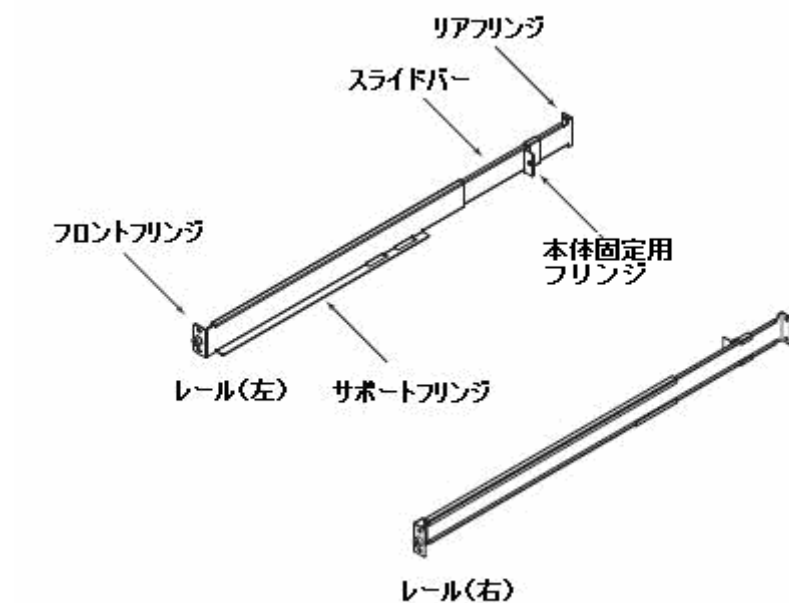
イージーセットアップラックマウントキット—ショート

イージーセットアップラックマウントキットは、一人でマウント作業ができるように設計されたものです。イージーセットアップキットを使用してのマウント作業は、以下の手順に従ってください。

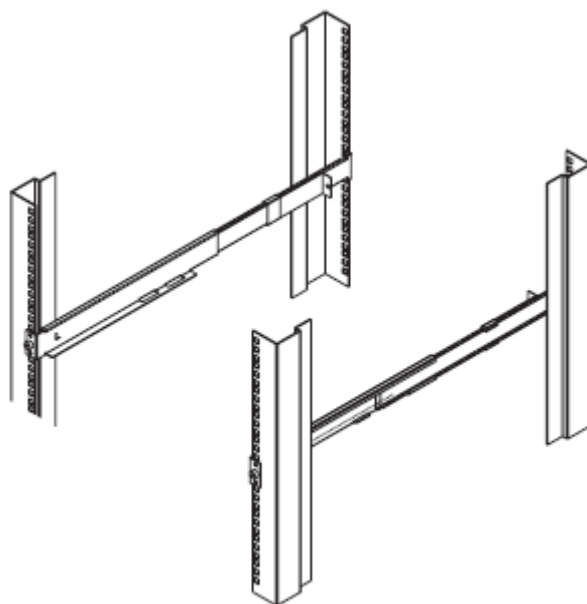
1. スタンダードラックマウントキットの L 字型金具を取り外し、さらに本体側面についているスライドレールを取り外してください。



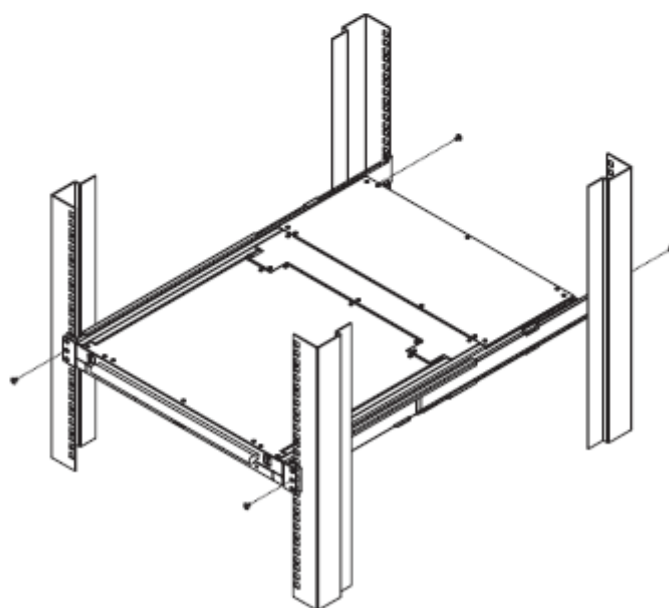
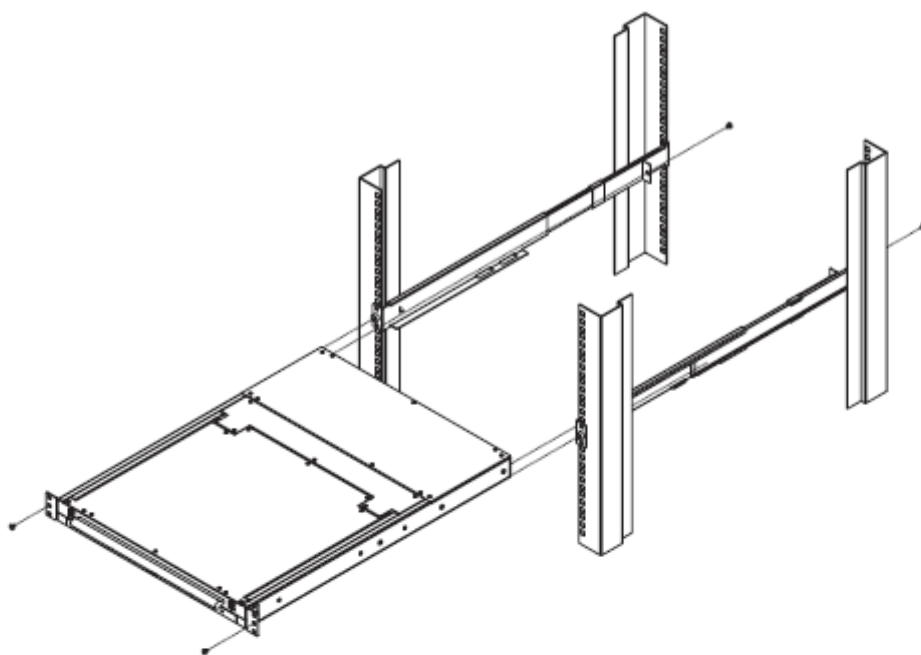
2. イージーセットアップキットのレール 2 本 (左右) をラックの内側に先に取り付けておきます。レールについているスイッチ固定用のフリンジがラックの内側になるよう、向きを確かめてから取り付けてください。



- a) 最初にフロントフリンジをラックにネジ止めします。
- b) スライドバーをラック奥に届くまで延ばしたら、リアフリンジをラックへネジ止めします。



3. CL-1208/CL-1216 をサポート用フリンジに乗せながらスライドさせてラック内に収納し、本体前面にあるフリンジとレールをネジ止めします。
4. 本体固定用フリンジを CL-1208/CL-1216 側に接触するまでスライドさせて、スイッチ背面にネジ止めします。



仕様

機能		CL-1208	CL-1216
コンピュータ接続数	ダイレクト接続	8	16
	最大 (デジチェーン)	504	512
ポート選択		プッシュボタン、OSD (オンスクリーンディスプレイ)、 ホットキー	
外部コンソール コネクタ	キーボード	ミニ DIN 6 ピン メス	× 1
	マウス	ミニ DIN 6 ピン メス	× 1
	モニタ	HDB-15	× 1
コンピュータ側コネクタ		SPHD-15 メス × 8	SPHD-15 メス × 16
電源		3 極 AC 電源ソケット	
スイッチ	LCD 調整	プッシュボタン	× 4
	リセット	ピンホール型	× 1
	電源	ロッカースイッチ	× 1
LED	オンライン	オレンジ × 8	オレンジ 16
	選択ポート	グリーン × 8	グリーン 16
	Lock	Num Lock	× 1
		Caps Lock	× 1
		Scroll Lock	× 1
	電源	ブルー	× 1
ファームウェアアップグレードスイッチ		スライドスイッチ	
VGA 解像度		15"LCD CL-1208L/CL-1216L: 最大 1,024 × 768 17"LCD CL-1208M/CL-1216M: 最大 1,280 × 1,024 DDC2B 準拠	
スキャンインターバル		1 ~ 255 秒 (ユーザー設定) / 5 秒 (デフォルト)	
キーボード/マウス エミュレーション		PS/2	
電源仕様		100V ~ 240V 50Hz/60Hz	
消費電力 (100V)		15"LCD モデル: 23.8W 17"LCD モデル: 36.3W	15"LCD モデル: 25W 17"LCD モデル: 36.3W
動作環境	動作温度	0 ~ 50°C	
	保管温度	-20 ~ 60°C	
	湿度	0 ~ 80%RH 結露なきこと	
ケース材料		メタル	
重量	15"LCD CL-1208L:	13.4kg	15"LCD CL-1216L: 14.3kg
	17"LCD CL-1208M:	13.8kg	17"LCD CL-1216M: 14.5kg
サイズ (W × D × H)		480 × 626.6 × 42 mm	

トラブルシューティング

症状	対処
外部コンソールのモニタに ゴーストが出ます。	CL-1208/CL-1216 と外部コンソールの距離が遠すぎるのが原因 だと思われます。外部コンソールまでの距離は最大 5m、またご使用 の環境によってはさらに短くなることがあります。VGA ケーブルの長 さを短くしてみてください。

製品保証規定

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品の販売店は、製品および本ドキュメントの使用に関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる表示・保証も行いません。

弊社は製品および付属のソフトウェア・ドキュメントについて、予告なしに改良・改訂を行う権利を有します。詳細については販売店までお問い合わせください。